司会　本日はお忙しい中、お集まりいただきましてありがとうございます。商社OBの皆さまがインドの教育分野において活躍されているということで、本日は臨場感あふれるインド事情をお聞きできればと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

(1) 第二の人生は物つくりから人つくりへ

司会　まずは、商社時代にどのような仕事をされていたか、そして現職に至る経緯をお聞かせいただけますでしょうか。

吉野（東大）　東京大学インド事務所長の吉野です。1977年三菱商事に入社して機械グループに所属して主にエネルギー・化学プラント分野に携わりました。駐在経験はフィリピンレイテ島肥料工場建設現場2年（1982－83年）、インド13年（1987－91年ボンベイ、2002－11年ニューデリー）です。2002年からデリーでメトロをはじめとする鉄道プロジェクトに関係したことを契機に、インド新幹線が私の夢になりました。2011年母校（理学部卒）の東大がインドに初めて事務所を設立するというので、東大の公募に応募し面接試験を受けてインド事務所長を拝命しました。当初4年間バンガロールに事務所を構えていましたが、2015年12月ニューデリーに引っ越しました。商社時代は「物（プラント）つくり」一筋でしたが今は「人つくり」を新たなテーマにして取り組んでいます。欧米有力大学との間でインドの高校生や大学生の優秀人材つくろ、ｭ火遵鷺環calでポ褪撥蒄ル亮【并ドの鴻臊ｑそＫ†遺そ呪【Ｓ

負っていますから、よほどの使命感がなければできないと思います。立命館の場合も使命は東大と同じですが、やはり世界各国から留学生を迎えるために、2010年に日本の大学として初めてインド事務所を構えました。「グローバル30」は2009－13年の5年間の事業でしたが、他大学の入試会場として場所を提供したり、大使館関係の事業に参加したりと公的な役割もあることから、インド事務所を継続しています。なお、立命館は「グローバル30」に採択されましたが、その発展系である「スーパーグローバル大学創成支援」には2014年に立命館、立命館アジア太平洋（APU）の2校がそろって採択されました。現在は、APUを含め学部生44人、大学院生16人、合計60人（2016年5月1日現在）のインド人留学生が在籍しており、今後も積極的に留学生の受け入れを進めたいと思っています。

西川（JST）　2014年1月の安倍首相訪印をきっかけにして、両国の科学技術交流についても大きく動き始めました。JSTは以前からインドに注目していましたが、日印共同声明をきっかけに事務所開設の動きが本格化し、2015年11月に事務所を立ち上げました。JSTの海外での使命は、外国との共同研究、そして人材育成・交流が大きな柱です。最近は、日本をより知ってもらうために、「日本・アジア青少年サイエンス交流事業」（通

ターンシップで日本に来てもらい日本を好きになってもらうことからスタート。次に入学時の奨学金を用意し、卒業後の就職の可能性

には多くの学生
が進学しますが
博士が少ない
ので、留学生で

世界ランク1位)、Ms.Sunita Narain（環境保護主義者）でした。

北村

西川（JST）　有名な私立進学高校に行くと、インド人の生徒が日本語で挨拶をしてきたり、客を案内したりと、非常によく教育されていると感じます。また、卒業生の60－70％が欧米の大学に進学する学校も多くあり、その外向きさには本当に驚きます。

北村（立命館）　インドは祖父母と暮らす大家族が多いので、家族や目上の方を大切にする習慣がありますね。こちらの高校にも生徒会のような組織があり、選挙で選ばれた生徒たちが、例えばお客さまがいらした際には案内係、写真係などと分担してしっかり活動しています。学年末にはその活動が表彰されるので、本人もうれしいし自信につながるのだろうと思います。

西川（JST）　確かに学校内での優秀者の表彰機会はすごく多いですね。勉強はもちろん、スポーツや奉仕活動、課外活動でも、とにかく頑張ってトップになった学生はいろいろな理由で表彰します。

北村（立命館）　頑張ったら褒めるという、育て方ですね。

西川（JST）　表彰式には親御さんも来ますから、自分の子供が褒められているのを見て喜ぶわけです。そうすると、また親も子供を褒め、生徒はさらに頑張る。これは日本でもやってみる価値がありそうです。

(3) なぜインドはITが強いのか

司会　その他に、何かインド特有の教育事情椰楡ŏ댈댇┼鰍銻雲 ' x g,aW€,‰T˜,f3p　{

吉野（東大）　アニメーションを大学で学べるといったら、それだけで、世界中から留学生が来ますね。

北村（立命館）　京都では京都精華大学しかないですからね。プロの漫画家やアニメプロデューサーを育てていますが、非常に狭き門と聞いています。ただ、日本にそういう大学があることが知られていません。個人的な感覚ですが、東南アジアは日本や日本ブランドに対する憧れがあるので、日本への留学生も多い。ところが、インドは日本に対して特段憧れがあるわけでもない。私自身もジレンマに感じていますが、インドでは、「英語で学位が取れます」というのは全くうたい文句になりません。吉野さんが話された通り、インドでは学生に「奨学金、インターンシップ、就職」の3点を提示して、これでなんとか留学に来てくれませんかと頭を下げないと、絶対に来てくれませんね。

西川（JST）　それに加えて、日本が、自国の良さをうまく伝えられてない部分もありますね。一度、日本に来ると、「日本は良い国だ」と、急に見方が変わるケースが多々あります。

北村（立命館）　一度知ると、ものすごく変わりますよね。

西川（JST）　インドにはあまり日本の情報が入ってきませんし、インターネットも日本語だとインド人は読むことができません。日本が劣っているわけではないですが、広報宣伝技術・意識をカイゼンすれば、日本ブームが起きるかもしれません。

吉野（東大）　私も商社時代には、日本は欧米にも引けを取らないと思って仕事をしていましたが、大学の世界では話が違います。欧米の大学は圧倒的に強く、宣伝が上手です。日本の大学は今まで全く宣伝をしてきませんでしたので、これから日本を好きになってもらえればいい。そのためには一部の人だけでなく、より多くの日本人がインド人と仲良くなって、インド人が日本を好きになってくれればおのずと留学生も増えていきます。All JAPANの観点が非常に大切です。

西川（JST）　既にこれだけ欧米に差をつけられているので、縦割り行政では追い付けません。All JAPANで真剣に取り組む必要性を痛感します。

吉野（東大）　企業であれば勝てない相手には勝負しませんが、私たちは今やらないと永遠に欧米から差をつけられてしまいます。少しずつでも、日本を知ってもらい、好きになってもらわないといけません。

北村（立命館）　それは間違いなく言えますね。なにせインドでは東京と京都ですら区別がつかない人がほとんどです（笑）。私もインドに来た時に「立命館」という名前は多少知られているかと思っていましたが、実際には全く知られていないし、名刺を渡しても企業なのか大学なのかも理解されず非常にショックでした。総長に話して、名刺のロゴにUniversityという言葉を特例で追加してもらったほどです。

西川（JST）　立命館だけの問題ではありません。関西の私立でトップを目指すのではなく、目標だけは世界でトップ（せめて上位）を目

らどう対応するか、責任をどうするかというアクションプログラムができていますので、臨機応変に対応することに慣れています。しかし大学は、危機管理体制が不十分であり、責任分担が明確になっていません。日本人学生のグローバル化といわれますが、世界中でテロが起きる可能性もあり、もはや安全な場所はありません。世界中どこでも、学生が基本的な健康管理と安全管理の心構えを持てるためにも、大学も職員も少しずつグローバル化に向けて変化しないといけないと思います。

司会　大学も変化が求められているということですね。商社の方は、やはり変化や新しい世界をポジティブに捉える習慣があるような気が致します。

西川（JST）　商社の仕事は、常に相手が「人」です。人に会ってネットワークをつくるという習性があります。私たちが入社した頃の商社は、輸出入が中心だったのが、今では投資や金融、資源エネルギーにまで事業が分野が広がり、時代に応じてビジネスモデルが変わることが商社の強みです。しかも、それを同じ商社の社員がやっている。昨日まで機械担当で、今日からは資源担当なんていうこともあり得る。新しい世界に飛び込んで、新しい人と会って何かをやろうということに対して、われわれはあまり違和感がないですよね。

吉野（東大）　まさしくそうです。だって、私たちは今、学生に頭下げているんですから（笑）。

北村（立命館）　大事なお客さまですからね。60歳超えて、大学生や高校生に頭下げていますよ（笑）。

司会　遺伝子に組み込まれているんですね（笑）。

吉野（東大）　接客業は商社時代から慣らされていますから、DNA化されていますね（笑）。ですから、自然と学生には頭が下がります。しかも、私のお客さまは15－17歳の特に女子学生ですから。これはやっぱり商社の人間が向いているんじゃないかなと思います（笑）。

北村（立命館）　外国も当たり前で、特に違和感もないですからね。

吉野（東大）　しかも、あえて難しいインドに自ら手を挙げる人は、そうはいませんよ（笑）。

北村（立命館）　確かにそれは言えますね（笑）。

西川（JST）　インドには先進国に似た意識もあり、IT分野も強いので仕事は面白いと思いますが、なかなか来たいという人がいないと聞きます。最近ではJSTでも商社OBが増えていると聞いています。商社OBはあらゆる分野で活躍していますね。

北村（立命館）　商社はやはり絶対的に人材の宝庫ですよね。すごい資質を持った方がたくさんいます。しかも、短期間でしっかりトレーニングを受ければ、日本語教師として海外で活躍することもできます。収入うんぬんではなく、誰かに喜んでもらえる、しかも、新しい世代のために役に立っているというやりがいがすごく大事ですね。やはり誰かに頼られるというのは、私たちの年ではうれしいものです。

西川（JST）　われわれの年齢になると、報酬の多寡よりも仕事の意義や興味の方が大事ですね。それに「明日クビだ」と言われてもあまり怖くない（笑）。また、過去の経験を活かして、この年齢で最前線の現場で仕事ができるのはぜいたくなことだと思っています。それでもやはり健康が一番ですね。

(6) 不思議の国　インドの魅力

司会　それでは最後にインドの魅力をお聞かせいただけますか？

西川（JST）　インドは仏教やイスラム教の歴史も長く、石の文化でもあるため歴史的遺産が多く残っています。商社時代は仕事一本で

した。今も当時と同様に多忙ですが、精神的には多少余裕があるので、何とか時間をひねり出して世界遺産制覇を目指しています(笑)。インドは、好きか嫌いかが明確に分かれるとよくいいますが、私としては良いところもあり、嫌なところも山ほどあります。とはいえ、逃げ出したいわけでもなく、興味にまかせて仕事ができていますね。若い頃もそうであればよかったと反省気味です。

北村（立命館）　確かにインドは好きか嫌いかといわれますが、私の場合はもっと勉強しないと好きも嫌いもないだろうと思います。知れば知るほどインドにはまりかけているというか、もう少し知ってみたいという妙な魅力がありますね。知らないままで過ごすのは、もったいないという感じがします。

吉野（東大）　第1の魅力としてインド新幹線の夢の実現があります。そのために10年後にムンバイ～アーメダバード間505km（東京～新大阪552.6km）を走るであろう新幹線に携わる技師の人材育成に魅力を感じます。次に、20世紀の大天才数学者シュリニヴァーサ・ラマヌジャンをはじめインドは偉大な天才を輩出している国であることと、奈良の大仏様からの日印人的交流の歴史があること。その次にインド5千年の知恵ともいうべき、ヨガ、アーユルベーダそしてインド占星術（未来予測学）があり興味ある対象がたくさんあります。一時、日本にあるインドもの探しが趣味になりました。例えば、京都の祇園や祇園祭のルーツはどこか？

カルピスの名前の由来は何か？

カルシウムのカルとサンスクリット語サルピス（訳：熟酥（じゅくそ））